



全農長野県本部情報／グリーン レーダー Vol.478

Contents

中期事業計画（2019～2021年度）

A-Policy **重点事業方針**

- ・平成30年度 米穀中期事業計画の進捗状況
- ・平成30年度 生産販売部営業課事業計画の進捗状況
- ・セレモニー事業「墓所清掃」の取組み

A-Reports／

・第50回 信州フラワーショー ウィンターセクション	7	・JAファームセンターより	
・りんご高密度わい化栽培推進大会	8	・ホームページリニューアルのお知らせ	10
・ナイルワークス製ドローン取組み検討会	8	・JA全農長野の事業現況	10
・第44回肉牛を育てる女性の集い	9	・3月の動き	10
・JA長野県青年部協議会と意見交換会	9	・3月のラジオ番組表	10
		・編集後記	10

中期事業計画 (2019、2021年度)

I J A全農長野基本理念

会員J Aとの一体的な事業運営により、生産販売から購買まで一貫する総合経済事業を通じて、J A組合員の営農と生活の向上に貢献します。

II 基本方針

1. 国内農業を取り巻く環境は、農畜産物の輸入増加、需要の減少に加え、気候変動等による生産状況への影響が生じており、経営規模の大小に係わらず農業所得の確保が課題となっています。
- また、農業経営体の推移は、家族的経営体が減少する一方、法人等の組織経営体が耕地面積を拡大しながら増加しており、長野県内においても大規模経営体と小規模経営体の二極化が一層鮮明になっています。

2. 農畜産物貿易交渉については、米国を除く新協定T P P 11ならびに日欧E P Aが発効されたほか、米国との二国間による日米物品貿易協定(T A G)交渉の決定など、政府主導による自由貿易交渉が加速し、農業者の大きな不安となっています。
3. 長野県J Aは農業経営に資する生産基盤の維持拡大をすすめるとともに、多様化する組合員ニーズへの対応を急ぎ、J A経済事業の進展をはかる必要があります。
4. このような環境のもと全農長野県本部は、「J A長野県次期長期構想・3カ年計画」における事業別・分野別指針との連動をはかり、J A経済事業の収支改善に積極的に関与し、農協改革の取り組みを加速化させるとともに、J A・県域および子会社の統一した戦略の

4. 事業管理費

業務の効率化により事業管理費の圧縮に努めます。

5. 機構・要員

J A・子会社との一体的な事業運営・農業生産基盤強化・販売力強化等の確実な実践に向け、J A・子会社との人事交流も含め効率的な事業体制と機能発揮に向けた機構・要員配置とします。

6. 施設投資・システム開発・外部出資

財務の健全性を基本に置き、事業の将来展望・戦略性および必要性・費用対効果・緊急性を十分検討し、投資回収基準(3年単黒・5年累積解消・10年投資回収)に沿ってすすめます。

IV 事業方針

1. 農業振興事業

- (1) マーケットインを起点とした生産振興を推進し、多収性と労働生産性向上が望める生産技術の普及推進や栽培品目の複合化による経営基盤強化策を提案し、併せてJ A営農技術員のサポート体制を整え、

もと、効率的一体的事業運営体制により農業所得の増大および地域の活性化に取り組みます。

5. 更に、県本部総合経営管理体制の堅持により、部門別事業競争力強化と経営基盤の確立をはかり、県域結集の拡大と結集成果を反映したJ A・組合員へのメリット還元に努めます。

【事業運営の基本目標】

1. 積極的な生産振興に基づく農業生産基盤の維持強化
2. 販売力強化とコスト低減による農家組合員の手取り最大化
3. 経済事業拠点の合理的・効率的な運営整備

【経営管理の基本】

経営管理体制の高度化と県本部総合経営管理体制の堅持

III 経営方針

1. 総供給販売高計画(年度別)

2019年度	2,775億円
生産振興部	2億2,500万円
生産販売部	1,581億7,500万円

案により、生産振興と集荷力の向上をはかります。

- (2) 生産者手取りの最大化に向けた販売力の強化のため、重点実需者への総合品目による安定供給体制の確立と、機能の高い卸売会社との連携強化をすすめます。

- (3) 顧客から要望の高いパッケージ商品や一次加工商品などの開発力や対応力を強化し、付加価値を高めた商品提供により農業所得の向上をはかります。

- (4) 広域的な視点からの集出荷体制の整備や施設の共同利用をすすめるとともに、より効率的な輸送体系の構築により物流の安定化をはかります。

- (5) 長野米の需要に基づく計画的な生産と系統結集をすすめるとともに、商品力と営業力の向上による農業所得の増大に取り組みます。

3. 生産購買事業

- (1) 包装資材事業は、販売部署と連携した積極的な規格の集約化および過剰包装の見直し提案によるコスト抑制に取り組みます。また、パレット輸送による効率的な青果物輸送に適した出荷資材の統一規格

生産購買部	364億円
畜産酪農部	323億円
生活部	504億円

2020年度 2,779億円

生産振興部	2億2,500万円
生産販売部	1,591億7,500万円
生産購買部	364億円
畜産酪農部	322億円
生活部	499億円

2021年度 2,785億円

生産振興部	2億3,000万円
生産販売部	1,598億7,000万円
生産購買部	365億円
畜産酪農部	322億円
生活部	497億円

※総供給販売高には内部販売を含みます。

2. 税引前当期利益

3億2千万円(税引後1億9千万円)とします。

3. 奨励施策

施策の選択と集中をはかり、事業基盤の確立と担い手総合支援対策に資する重点的・効率的な事業奨励とします。

設定をすすめます。

- (2) 肥料農業事業は、B B 肥料の原料集約・見直し、農業大型規格の拡充によるコスト低減と予約率向上対策による需要結集に取り組みます。また、大規模経営体への直行配送方式の拡大や土壌診断に基づく「わたしの肥料」の提案推進などに取り組みます。

- (3) J A 資材店舗・物流拠点の再編・整備では、店舗運営の相談支援および県域物流拠点の補完機能強化などに取り組み、J A の事業収支改善に努めます。また、J A の発注・仕入業務の効率化に向けたシステム開発をすすめます。

- (4) 農業機械事業は、低価格モデル農機の共同購入、県内需要実態に合った県域推奨型式の機種拡大、共同利用(レンタル等)の促進および買取強化による中古機流通の拡充に取り組みます。また、協同経営は、健全経営と効率的な事業拠点体制の構築をすすめます。

- (5) 施設住宅事業は、施主代行を基本として一級建築士事務所による専門性を発揮した設計・工事監理に取り組みます。また、コンサルタント機能向上による農業施設の高

度化・再編への対応強化ならびに組合員ニーズに応える住環境改善事業に取り組みます。

4. 畜産酪農事業

(1)生産基盤を維持し販売数量を確保するために、空き畜舎の活用による生産補完体制の取り組みをすすめるとともに、素畜・初妊牛供給体制の強化をはかります。

(2)信州産畜産物ならびに乳製品のブランド力向上による販売強化および生産性向上による農家所得の増加をすすめます。

(3)県本部生産農場は、和子牛や乳牛初妊牛の県内供給、肥育素子豚の安定生産、乳牛預託の受け入れなどを通じて、その機能を十分に発揮し、県内生産基盤の維持拡大をはかります。

(4)営農指導体制強化ならびに生産基盤対策のため、J Aとの連携一体化した事業展開をすすめるとともに、地域畜産酪農営農センターは機能強化と新たな設置に取り組みます。

(5)県内食肉処理施設のあり方について関係者との協議を継続します。

5. 生活事業

(1)燃料事業は、事業基盤の整備および県域の総合エネルギー会社化を含む次期事業体制の検討をすすめます。石油事業は、系統結集による数量を背景とした仕入強化と農業用燃料支援対策の拡充をすすめるとともに、J A別マスタープランの実践による収支改善をすすめます。LPガス事業は、保安の確保と環境変化に対応した営業体制の強化に取り組みます。ホームエネルギー事業は、組合員向け電力供給開始に向けた事業構築をすすめます。

(2)S S協同経営事業は、燃料油およびカーメンテ収益の確保およびJ Aとの連携をより強化し、収支改善に取り組みます。また、基本接客、S S活動を生かした店舗作りと計画的な研修による人材育成をすすめます。

(3)自動車事業は、新銘柄導入による営農車取扱体制の見直しをすることともに、関心が高まりつつあるエコカー市場の変化に対応できる販売・整備体制の構築をすすめます。

(4)生活事業における宅配事業は、新規会員獲得推進の強化による「お

まかせ会員戸数」の維持とJ Aおよび県域業務の効率化による収支改善をすすめます。組織事業は、組合員ニーズに応じた品目提案と県域推進体制構築による事業強化をすすめます。物流事業は、効率的な配送体制に向けて配送拠点の集約・統合をすすめます。家庭薬事業は、「健康増進事業」としての配置家庭薬の普及推進体制の強化と新たな事業体制の協議をすすめます。

(5)セレモニ―事業は、「J A総合事業」と「J A虹のホールグループ」が連携する葬儀相談体制の強化と、次世代の組合員・利用者の利用につながる「J A虹のホールグループ」統一活動をすすめます。

(6)新たな事業として、E C(電子商取引)を活用した事業方式の構築をすすめます。

6. 経営管理

(1)県域結集および事業競争力の強化によるJ A・組合員へのメリット還元を基本とする県本部総合経営管理を堅持します。

(2)事業環境の変化を踏まえた県本部機能に見合う部門別収支の検証と

見直しにより、事業管理費の精査および管理コストの節減に努め、経営の安定化をすすめます。

(3)業務に係る法令研修や相談機能を充実させるとともに、一斉事業点検検証や内部業務点検を通じて、コンプライアンスと重点管理すべきリスク(食品表示、労務管理、法令違反、労働災害等)の未然防止を推進します。

(4)県本部総合経営管理体制を担う業務体制を効率化するとともに、職員的能力開発・人材育成をはかり、J A・子会社との一体的事業遂行および自己改革の実践のための多様な雇用形態による要員体制を確立します。併せて、働き方の見直しを行い、適切な労務管理体制を推進します。

(5)J A長野県グループおよび行政機関等との連携を強化し、効果的な広報活動と、地域に貢献する組織広報をすすめます。

(6)子会社は、内部統制システムの整備およびコンプライアンス態勢の推進による健全経営管理をはかるとともに、J A経済事業の補完機能強化をすすめます。

米穀課

平成30年度米穀中期事業計画の進捗状況

平成30年度の事業計画は総供給販売高192億5千2百万円を目標に事業推進をしてきました。

【米穀事業の進捗状況について】

平成29年産米の長野県の作況指数は「101」、集荷数量は69,300トンとなりました。主食うるち米は、期中で相対基準価格を引き上げ改定(2018年1月12日より改定)コシヒカリ・あきたこまちし、コシヒカリA地区15,300円／俵・あきたこまち14,500円／俵で契約を完了。2018年12月に本精算を実施し、主食米平均で約970円／俵の本精算(前年産対比121%)に至りました。

平成30年産米の長野県作況指数は「100」となり、1月末現在の集荷数量は68,900トン(前年産対比96%)となっています。

猛暑での高温障害による品質低下が懸念されましたが、軽胴割粒が散

見される程度にとどまり、品位を示す主食うるち米の1等比率は1月末現在で97.5%となっています。現在の相対基準価格は、出来秋の販売開始から2019年1月28日よりコシヒカリ・あきたこまちの価格を上げ、コシヒカリA地区は15,600円／俵、あきたこまちは14,700円／俵となっています。

【重点推進事項について】

①平成30年産米の集荷は、29年産米に続き概算金の引き上げ、米穀事業基盤強化奨励の活用による集荷対策により集荷数量の積上げを図りました。概算金(1俵あたり)はコシヒカリA地区で180円、あきたこまち・風さやかで120円、前年産より引き上げを行いました。

②平成30年産米の販売は、積極的に複数年契約の推進に取り組んだ結果、30年産での複数年契約は29年

産を5,500トン上回る30,800トンの契約となりました。

③消費拡大対策として、テレビCM「生産者」「木曾少年相撲クラブ」「松本国際高校男子バレーボール部」「長野東高校陸上競技部女子駅伝チーム」編をタイムリーに投入しました。また、新米キャンペーンを企画し、県内卸売会社と共に消費拡大に努めました。

④長野米の輸出として、重点取引先である東洋ライス㈱と連携。「金芽米」等の高付加価値米商品により、シンガポールを重点国として展開しています。

⑤「平成30年以降の米穀事業のあ

長野米で、毎日 あっばれ! 新米 長野 長野県新米キャンペーン

長野米を食べて、応募券を2枚集めて キャンペーンに応募すると、抽選でステキな賞品をプレゼント!

350名様に当たる!

A賞 タイガー 土鍋圧力炊飯ジャー JKK-V2-K 10名

B賞 信州アルプス牛 500g 20名

C賞 オリジナルQUOカード 10,000円分 20名

チャンス W A賞～C賞ご応募の中から抽選で当たる! 全国共通おこめ券 1枚(1kg相当分) 300名

応募方法 対象商品に付いている応募券2枚を郵便はがき(または専用ハガキ)に貼付し、[1]住所 [2]氏名 [3]性別 [4]年齢 [5]電話番号 [6]に購入した商品(銘柄・kg) [7]に購入したスーパー名及び店舗名[8]に希望の賞品名 [9]にのキャンペーン何で当たったかを明記の上、ご応募ください。抽選で合計350名様に賞品をプレゼントさせていただきます。(応募はがき1枚につき1口とさせていただきます)

応募期間 平成30年12月31日(月)消印有効

応募先 〒108-8799 日本郵便(株) 消費商品私書箱50号 長野新米キャンペーン運営事務局

※当選者決定後、抽選結果は抽選の上で発表を行います。※当選者は賞品の配達をもって完了させていただきます。※当選者の住所等には対応しません。予めご了承ください。※個人情報(利用目的)※当選者の住所等に関する個人情報は、キャンペーンの推進・実施、個人を特定しない統計的利用のみに限定し、目的以外に利用いたしません。※個人情報を第三者へ提供しないことを保証します。※個人情報は、利用目的の範囲内で第三者(委託先等)へ提供する場合があります。目的外に提供しないことには、委託先等以外に第三者へ提供・提供を受けることはありません。

長野新米 キャンペーン 応募券

キャンペーンの詳細は 長野 JA全農長野 全農長野 新米キャンペーン 検索

米袋に貼付した新米キャンペーンの広告

生産販売部
営業課平成30年度
生産販売部営業課事業計画の進捗状況

【平成30年度事業概要】

平成30年度事業は、供給高計画155億円を目標に、果実、野菜、きのこ、花きの各品目で事業推進してまいりました。

特に重点実需者（生協、量販店、加工・業務顧客等）との連携を強化し、本県産青果物・花きの売場確保と信州ブランドでの総合宣伝および実需者開拓に努めました。



オークワパームシティ店トラックセール

果実関係では、春先の温暖化の影響から生育が大幅に前進化したことに加え、度重なる気象災害の被害もあり、企画面では非常に難しい年となりましたが、リンゴ、ブドウを中心に新規企画提案に努めました。野菜関係では重点実需者中心に契約取引を基本とした安定供給、責任供給に努め、あわせて業務加工用途向けの拡充により取扱目

標の達成見込みとなりました。きのこ関係では事前企画提案の徹底と新規取引先の開拓を進め、年間を通じて売場が確保される営業展開を推進しました。花き関係では既存品目の取引拡大や新規品目提案により取扱実績を伸ばすことができました。

【平成30年度重点取り組み事項】
1. 顧客確保に向けた積極的営業展開

総合品目供給産地としての強みを生かした営業展開を基本に、職員全員がセールスマンとしての認識統一のもと、積極的な推進を図ってまいりました。品目固有の宣伝会はもちろんのこと、トラックセールなど集客力のあるイベントなどの企画を提案・実施し、年々成果の上がる販促へと進化しつつあります。

2. 商品供給力の強化による信頼関係構築

生産状況に応じた新鮮な情報提供を行い、商品供給力を強化することで実需者が重視する安定供給を図り、信頼関係を維持・構築してまいりました。

3. 商品提案力の充実・強化

実需者が求める規格、包装形態を開発すると共に、セット商品や大容量規格商品を積極的に提案することで、取扱量の拡大を目指してまいりました。

4. 長野県産農産物の高付加価値化

年々激化する流通や物流に対応した規格、形態にアンテナを張り、生産、流通、消費それぞれの立場の皆様にご喜ばれる商品開発を日々目指してまいりました。また、他業種とのタイアップによる認知度向上と消費喚起に取り組みました。

生活課
（株）長野エコープ
サプライ

セレモニー事業「墓所清掃」の取り組み

（株）長野エコープサプライでは、2017年7月より「墓所清掃」「墓所現状確認」サービスの取組みを開始しました。開始当初は、JA松本ハイランド管内のみでしたが、今年度から、JAあづみ・JA大北管内とサービスエリアを広げました。今年度の実績として110件余りの「墓所清掃」を手掛けることができました。

としかれない汚れは、墓石を傷めないう、極力洗剤などを使用せず手洗います。また、墓所の立地によっては、使用する水、高圧洗浄機、清掃道具一式を墓所まで運ぶ大変な重労働となることもしばしば。しかし、清掃終了後にお客様から感謝の言葉をいただいた時は、「お役に立てて本当に良かった」と、達成感もひとしおです。

また「墓所状況確認」事業は、お客様が遠方いらして、なかなかお墓参りに行けない方・地震や台風等の後でお墓の状況が気になる方のために始めたサービスです。墓所周辺のゴミ等を清掃し、写真撮影を行いご報告させていただいています。

葬祭事業は、葬儀の小規模化やニーズの多様化など事業の環境は目まぐるしく変化しています。今まで以上にお客様の声に敏感でなければなりません。「墓所清掃」「墓所現状



高圧洗浄機による清掃



墓所清掃前



墓所清掃後

第50回 信州フラワーショー ウインターセレクション

農林水産大臣賞はJ A上伊那の 酒井弘道氏(アルストロメリア)が受賞

J A全農長野とJ A全農長野花き専門委員会は1月31日(木)・2月1日(金)、J A南信会館(伊那市)で「第50回 信州フラワーショー ウィンターセレクション」を開催しました。

気象変動による栽培管理への影響が目立ち、特に今年は降水量が少ない干ばつ傾向での開催となりましたが、生産者・関係者の努力により369点(昨年372点)が出品されました。



農林水産大臣賞を受ける酒井さん

甲乙つけがたい出品物の中で農林水産大臣賞を受賞したJ A上伊那の酒井弘道さんのアルストロメリア「ピンクティアラ」は、出品数の7割以上を占めるアルストロメリア

の中でも特に「発色と草姿のバランスが良い」と高く評価されました。

このフラワーショーは、長野県が日本一の生産量を誇るダリアや冬季の主要品目であるアナモネの出品数も多く、花木類ではレンギョウ、桜、アカメヤナギの出品もあり、県内において多彩で高品質な切花や花木類が栽培されていることを来場者に知っていただく良い機会になっています。また、地元の小学生を招待したフラワーアレンジメント教室や、保育園児を招待した会場見学は、県内で生産されている花きに親しむ「花育」活動として取り組んでいます。参加した小学生と園児は、県内で生産された鮮度抜群の切花を持ち帰り、家族で会話が弾んだことと思います。

信州フラワーショーは、「生産者の栽培技術を競い、技術の向上と本県花き産業の振興を図る」ことを目的に、毎年夏と冬に開催しています。今後も長野県産花き類の生産振興と生産技術の向上、消費拡大につながる取り組みを進めます。

▼野菜花き課

栽培技術のレベルアップと取り組み拡大を狙う

りんご高密度植わい化栽培推進大会

J A長野県営農センターは1月30日(水)、J A長野県ビルで、栽培技術の更なるレベルアップと取り組み拡大を目的に、「りんご高密度植わい化栽培推進大会」を初めて開催し、県内のりんご生産者・J A果樹技術員140名が参加しました。

大会では、当センターの小池洋男技術顧問と三村貞美技術審議役から、高密度植わい化栽培のメリットや目的の再確認、技術上のポイントなどの説明があり、取組事例としてJ A松本ハイランドとJ A上伊那の職員および生産者代表から発表がありました。若い生産者の意欲的な面積拡大と多様な雇用形態の説明に刺激を受け、J Aの垣根を超え生産者間での活発な意見交換がされました。

リンゴの「高密度植わい化栽培」は、早期多収と品質・商品化率の高位安定、栽培管理作業の効率化が最大のメリットで、オランダやイタリア南チロルなどの先進的な国・地域から始まり、アメリカ、ニュージーランド、中国、韓国など世界各国で拡大が進み、21世紀のりんご栽培の世界標準になりつつあります。

県内では2006年から取り組みの検討

が始まり、当センターでは小池顧問の得た知見に基づき、また長野県果樹試験場が選抜したM・9ナガノ(わい性台木)の譲渡を受け、上伊那郡箕輪町の柴壽氏(しばひさし)の圃場で台木を増やしてきました。2010年頃からツールスピンドル仕立てによる「高密度植わい化栽培」を進め、現在、県内での高密度植わい化栽培の面積は、約323haまで拡大してきています。

早くも、第2回目の開催を要望する声もあり、当センターは果実課とともに引き続き、技術・苗木供給を含めJ Aと連携して、高密度植わい化栽培の拡大および生産者の手取り向上に取り組んでいきます。

※1本の主幹を添え竹などに固定して垂直に維持し、発生する側枝を下垂させて管理する手法



開会の挨拶をする片桐雅樹営農センター長

(敬称略)

第50回信州フラワーショー ウィンターセレクション入賞者

賞	品目名	品種名	受賞者	J A名
農林水産大臣賞	アルストロメリア	ピンクティアラ	酒井 弘道	上伊那
農林水産省生産局長賞	アルストロメリア	ミストラル	唐澤 勲	上伊那
農林水産省農政局長賞	アナモネ	ミストラルプラス	上原 亮一	信州諏訪
全国農業協同組合連合会長賞	アルストロメリア	エレガンス	中原 睦男	上伊那
長野県知事賞	ダリア	彩雪	伊藤 哲	上伊那
日本花き卸売市場協会会長賞	アルストロメリア	アメジスト	塩澤 利廣	上伊那
フラワー産業議員連盟会長賞	レンギョウ	ジャイアントレンギョウ	柳沢 一夫	信州諏訪
長野県農業協同組合中央会長賞	アルストロメリア	スイートポテト	井出 誠	上伊那
伊那市長賞	アルストロメリア	パリ	有賀 美和	上伊那
伊那市長賞	アルストロメリア	ミストラルプラス	平出 千	信州諏訪
伊那市長賞	アルストロメリア	ミストラル	飯沼 輝雄	上伊那
伊那市長賞	アルストロメリア	ピンクサブライズ	飯島 守	上伊那
伊那市長賞	アルストロメリア	ピンクティアラ	南末広農園	上伊那
伊那市長賞	アルストロメリア	ピーチエ	市川 一人	上伊那
伊那市長賞	アルストロメリア	サンマリノ	はとろ園芸 柳澤源信	上伊那
伊那市長賞	アルストロメリア	タランティノ	小澤 正彦	上伊那
伊那市長賞	アルストロメリア	ピンクサブライズ	伊澤 修司	上伊那
伊那市長賞	アルストロメリア	アレクシア	永井 智	上伊那
伊那市長賞	アルストロメリア	ピンクティアラ	清水 千博	上伊那
伊那市長賞	アルストロメリア	ホットベッパー	久保田 卓二	上伊那
伊那市長賞	アルストロメリア	ミストラルプラス	伊藤 佐九次	信州諏訪
伊那市長賞	アルストロメリア	エレガンス	矢野 源彦	上伊那
伊那市長賞	アルストロメリア	ピンクサブライズ	福岡 弘	松本ハイランド
伊那市長賞	アルストロメリア	フラン	古畑 雅一	上伊那
伊那市長賞	アルストロメリア	ブライズメイド	篠原 万郎	信州諏訪
伊那市長賞	アルストロメリア	ピンクティアラ	紫芝 寿孝	上伊那
伊那市長賞	アルストロメリア	モーション	矢崎 深志	信州諏訪
伊那市長賞	アルストロメリア	ハニースフィア	小笠原 秀樹	上伊那
伊那市長賞	アルストロメリア	ヴォーグ	農事組合法人らいふ	上伊那
伊那市長賞	アルストロメリア	マッサ	赤羽 今男	上伊那
伊那市長賞	アルストロメリア	エナジー	南白鳥園芸	上伊那
伊那市長賞	アルストロメリア	ピンクティアラ	西尾 裕幸	上伊那
伊那市長賞	アルストロメリア	マッサ	上條 誠司	上伊那
伊那市長賞	アルストロメリア	ジャイアントレンギョウ	伊藤 孝一	信州諏訪
伊那市長賞	アルストロメリア	ミストラルプラス	柳沢 正強	上伊那
伊那市長賞	アルストロメリア	サクラ	柴田 千代子	佐久浅間

※表紙右上の写真／農林水産大臣賞を受賞したアルストロメリア「ピンクティアラ」

スマート農業への研究・導入への第一歩

ナイルワークス製ドローン 取組み検討会

J A全農長野農業機械課は1月18日(金)、次期中期3カ年計画に掲げた「スマート農業促進に向けた最先端農業機械の研究・導入」の取組みの第一歩として「ナイルワークス製ドローン取組み検討会」を開催しました。参加者は、県本部内関係部署(生産販売企画課、米穀課、生産資材課、農業機械課)の他、県農政部農業技術課、県営農センターの関係者の方々にも参加いただきました。

ドローンの農業散布は2016年に開始され、翌年度の農業散布面積は無人ヘリの0.8%に過ぎませんが、前年比はドローン1、213%、無人ヘリ99%と大きく伸長しています。ナイルワークス製ドローンは、完全自動飛行する技術開発に成功しており、今後の自動操縦タイプのドローンの解禁に向けての普及と、作物の上空30cmの低飛行によるドリフト低減効果が期待されています。

検討会では(株)ナイルワークス社より、機体の特徴や機能について説明を受け、多くの意見交換が行われました。

ドローンをはじめ、スマート農業における最先端農業機械が持つ可能性は非常に大きく、生産性向上と労働力不足対応に期待が高まっています。

農業機械課は、関係機関との連携を図り農作業の省力化と生産コスト低減に取り組めます。



(株)ナイルワークス 会社概要
資本金：4億8,770万円
主な株主：全農、農林中央金庫、クミアイ化学工業(株)、INCJ、住友化学(株)、住友商事(株)
事業：営農支援ドローンシステムの企画開発

英気を養い明日からの活力に 「第44回肉牛を育てる女性の集い」

JA長野県・信州肉牛生産販売協議会とJA全農長野畜産課は1月29日(火)と30日(水)の2日間、「第44回肉牛を育てる女性の集い」を昼神温泉で開き、肉牛の肥育や繁殖を手掛ける50名の女性、が県内各地から集合しました。分科会では10名ほどのグループに分かれて、日頃の飼養管理の悩みや苦勞を語り、グループ内での共感の声を受け、思いを分かち合いました。また、「お楽しみ企画」として、フラワーアレンジメント作りを体験していただきました。講師の説明を聞きながら、花をカットし、全体が丸くなるように吸水性スポンジに挿しますが、同じ花を使っても大きく広がる人、こじんまりとまとまる人など個性があり、皆さん笑顔で楽しんでいました。

この集いは、飼養管理



和やかな雰囲気の方科会

分科会で活発な意見交換

「JA長野県青年部協議会と意見交換会」

JA全農長野は2月1日(金)、JA長野県青年部協議会(県青協)との意見交換会をJA長野県ビルで開きました。地域農業の担い手である県青協の役員や当県本部の役職員など50名が出席しました。今年度は作物別に事前テーマを設定し、意見交換のポイントを絞ったうえで分科会に臨みました。果樹の方科会では「販売から見る信州ブランドの強化について」、野菜花きの分科会では「販売力強化に向けて」、きのこ分科会では「価格安定対策について」などのテーマについて活発な意見交換がされました。

分科会毎の意見発表においては、「全農の持っているマーケット情報等がなかなか伝わってこない。情報のやり取りが必要」「全農の消費宣伝活動に青年部も一緒に参加する」「市場価格のコントロールや生産コストの低減について引き続き努力して欲しい」など、青年部と県本部が互いの立場を理解し、建設的な意見が多く出されました。

最後に、当県本部の小澤卓夫生産販売部長ならびに平林務畜産酪農部長より意見発表の講評と日頃の生産努力に対して

感謝を述べるとともに、今後一層の連携と協力をお願いしました。

一方、県青協の柿島洋一会長からは「有意義な意見交換会になった。今年は分科会の進め方を変え、しっかりと意見交換ができた。次年度はぜひ2回行いたい」とお礼の言葉がありました。



県青協意見交換会(果樹分科会)

※表紙右下の写真／分科会後の意見発表

JAファームセンターより ホームページリニューアルのお知らせ

JAファームセンターのホームページが、2月中旬にリニューアルしました。新しいホームページでは、パソコンやスマートフォン、タブレットなどのブラウザの幅に合わせて表示サイズを自動調整するマルチデバイスを採用し、セールなどのお知らせを県本部ホームページにも掲載します。ホームページリニューアルに伴い、URLが変更になりましたので、ブックマークしている場合はお手数ですが再度登録をお願いいたします。皆さまのお役に立てる情報をタイムリーに発信していきますので、ご期待ください。



JAファームホームページURL <https://www.nn.zennoh.or.jp/jafarm/>

3月の動き

改革推進・企画課	3/14(木)・3/22(金)	子会社臨時株主総会・取締役会 JA長野県ビル、JA中信会館
総務広報課	3/9(土)	松本山雅FCホームゲームイベント(きのこPR、ベンチコート贈呈) サンプロアルウィン(松本市)
	3/12(火)～17(日)	全農全日本ミックスカーリング選手権 軽井沢風越アリーナ
	3/27(水)	会員会議 JA長野県ビル
	3/30(土)・31(日)	JA全農杯全国選抜少年サッカー大会2019北信越大会 佐久総合運動公園陸上競技場
人事課	3/29(金)	定年退職者辞令交付式 JA長野県ビル
	4/1(月)	新採用職員入会式 JA長野県ビル
生産販売企画課 JA長野県農産物PR協議会	3/9(土)・10(日)	ふるさとの食につぼんの食 全国フェスティバル NHK放送センター、代々木公園(東京・渋谷)
生産販売部、畜産酪農部、PR協議会	3/21(木・祝)	SBC子どもフェスティバル 長野市・トイゴ

3月のラジオ番組表

放送日時	放送局	番組名	放送内容(予定)
3/5(火) 16:10	SBCラジオ	情報わんさかGO!GO! ワイドらじ☆カン内「ミルクマガジン」	1級フードアナリスト 中島麻希さんのお話
3/12(火) 16:10	SBCラジオ	情報わんさかGO!GO! ワイドらじ☆カン内「ミルクマガジン」	インターバル速歩と牛乳
3/19(火) 16:10	SBCラジオ	情報わんさかGO!GO! ワイドらじ☆カン内「ミルクマガジン」	乳和食レシピの紹介
3/26(火) 16:10	SBCラジオ	情報わんさかGO!GO! ワイドらじ☆カン内「ミルクマガジン」	牛乳クイズ

JA全農長野の事業現況

平成30年度1月末部門別実績表 (単位:百万円,%)

部門	区分	実績	計画比	前年比
米	穀	15,300	100	97
果	実	35,316	101	104
野菜	花き	66,256	102	112
野菜種苗センター		171	101	99
きのこ		16,358	85	95
営業		12,667	90	102
生産販売部計		146,069	98	105
包装資材		7,333	94	96
生産資材		10,115	105	104
農業機械		6,217	106	95
施設住宅		3,568	120	96
生産購買部計		27,233	104	99
畜産		11,570	111	99
三岳牧場		274	104	94
SPF繁殖センター		261	107	113
酪農		15,531	106	98
ハケ岳牧場		200	71	78
畜産酪農部計		27,835	108	98
燃料・ホームエネルギー		22,483	116	106
SS協同経営		9,781	113	109
生活		9,974	96	94
生活部計		42,238	110	103
長野県本部計		243,375	102	103

(内部販売高含む)

編集後記

「三寒四温」の言葉どおり暖かい日もあり、春が少し近づいてきた感があります。そして、また花粉の季節がやってきます。最近、気象庁の発表がありました、スギ花粉の飛散が2月末から始まるそうです。

今年は「裏年」で、非常に飛散の多かった昨年よりは少ないものの例年より量は多い予想です。そして飛散のピークは、桜の満開の頃、例年よりは早いとの事。

私もそうですが花粉症の重い方は、治療薬とともに花粉用のマスクやメガネの準備が必要ですね。決定的な治療法はまだないようですが、日常生活でとれる対策をとってほしいものです。

30年度もご愛読ありがとうございました。

4月号から紙面もリニューアルします。引き続きよろしく願います。

(K)



2019 県下一斉
春のわくわく
ドエドエ
モーターキャンペーン

キャンペーン期間

1/1(火) ▶ 3/31(日)

新しい車と、
新しい時代。



新車



BIG CHANCE!

今がお買い求めのチャンスです!

期間中JAオートパルまたはJA自動車整備工場にて

●クルマをお買い上げのお客様の中からハガキ応募・抽選で

旅行券 2万円×40本

商品券 3千円×100本

●車検実施のお客様の中から抽選で

JA特産物 135名様

プレゼント!!

*当選者の発表は通知書及び商品の
発送をもって代えさせていただきます。



光と風と水のハーモニー

JA全農長野

JA全農長野ホームページ <https://www.nn.zennoh.or.jp>

インターネットで産地直送「JAタウン」 <https://www.ja-town.com>

